

<年表> アイメイト協会の歩みとアイメイト(盲導犬)に関連する事項

年	アイメイト協会の歩みとアイメイト(盲導犬)に関連する事項
1921	「盲導犬の父」塩屋賢一が誕生(当協会創設者、国産盲導犬第1号を育成)
1938	米国人ゴールドン氏と盲導犬オルティが来日 (日本人が初めて盲導犬と出会う)
1939	日本の実業家が訓練された盲導犬をドイツより輸入
1945	塩屋賢一がシェパード犬の子犬を手に入れ「アスター」と名づける
1948	塩屋賢一が公認訓練士の資格を取得し「塩屋愛犬学校」を設立 愛犬学校の傍ら盲導犬育成を志し、「アスター」に訓練を開始する
1949	「アスター」の盲導犬としての訓練が完成(訓練法の確立)
1950	塩屋賢一が自宅(練馬区関町1丁目・当時の表記)に「日本盲導犬学校」を開き、「盲導犬研究会」を設立
1956	塩屋賢一が河相 ^{さとし} 浏氏と出会う
1957	河相浏氏への歩行指導を修了し、国産盲導犬第1号「チャンピイ」が誕生
1963	女性初のアイメイト使用者誕生(戸井美智子氏)
1969	東京都の盲導犬育成事業の委託開始
1971	塩屋賢一が「東京盲導犬協会」を設立(後に「アイメイト協会」に名称変更)
1972	「東京盲導犬協会」の呼びかけにより「全国盲導犬協会連合会」が発足 (盲導犬使用者の国鉄乗車手続き簡略化のため) 第1回アイメイト・デー開催
1973	「アイメイト後援会」設立
1973	慈恵院(東京都府中市)にてアイメイトのお墓が完成
1977	アイメイト(盲導犬)使用者が日本で初めて国会の議事を傍聴 国鉄の自由乗車が実現
1978	運輸省自動車局長が日本バス協会に通達し、バスの自由乗車が可能に 道路交通法の改正により、「目の見えない者は白杖または盲導犬を伴って歩く」と成文化
1980	環境庁が全国の国民宿舎に「盲導犬使用者の宿泊」に協力するように通達 国鉄は国家公安委員会指定の協会名の盲導犬使用者証による乗車に移行 (航空会社、私鉄、バスもこれに準ずる)
1981	航空三社が盲導犬の口輪装着の義務を軽減 厚生省環境衛生局が旅館・飲食店などに対し、盲導犬使用者への対応協力について指導
1984	航空三社が航空機利用時の口輪装着条項を撤廃
1986	運輸省通達により日本バス協会が乗車時の口輪の装着を解除
1989	「東京盲導犬協会」から「アイメイト協会」へ名称を変更 厚生省より再度「盲導犬を伴う視覚障害者の旅館・飲食店の利用」について協力するよう、各都道府県に通達
1990	アイメイトペア延べ500組に到達
1996	練馬区関町北に協会施設を移転 The Seeing Eye, Inc.と友好と協力の協定書を交わす
2002	身体障害者補助犬法が施行
2007	アイメイト50周年 アイメイトペア延べ1000組に到達
2009	東京都の委託による卒業総数が300組に到達
2010	塩屋賢一死去
2016	「障害者差別解消法」が施行
2020	アイメイトペア延べ1400組に到達